

あなたの声をみんなの声に みんなの声をまちの形に

みんなの党 みんなの党通信

2011. 2.15 第1号

編集 みんなの党さいたま市議会第1支部  
URL: <http://www.minnanokaori.net>

富田かおりの  
現場  
レポート



# ここが問題！待機児童数

29  
人？  
実態は  
390  
人！

## ◇ 南区は半数近くが入所できず

南区の待機児童数は29人（昨年10月現在）と、市は発表しています。しかし、実際は昨年度、南区で認可保育所（公私立）に入所を希望していた約840人のうち、半数近くの390人は入所できませんでした。

そのうち、多くの人は緊急避難的に認可外のナーサリールーム（乳幼児保育施設）や家庭保育室へ子どもを預けています。こうした方たちは、認可保育所に申請しながら空きを待っています。まさに待機しているのです。また、行政の補助がなかったり、少ない施設で高額な保育料を払うことを避け、働くこと自体をあきらめる方も少なくありません。

## ◇ 「子ども手当上乗せより、保育を平等に」

別所6丁目に住むSさん(32)は昨年1月に長女を出産、現在育休中です。認可保育所への入所を申請しましたが第8希望まで書いてもダメでした。「市のホームページで南区の待機児童数は29人とあったので大丈夫と思ってました。交通の便がいいので南区に越しましたが後悔しています。このままでは仕事を辞めなければ」と頭を抱えます。生後5カ月の男児を持つ白幡のMさん(37)は「子ども手当の3歳児未満の上乗せ分はいらぬから、保育制度の利用を平等にしてほしい」と訴えます。

## ◇ 数値に表れない深刻な「保活」事情

働く母親たちの「保活」（保育所探し活動）の深刻さは、待機児童の数値には表れていません。待機児童数を数値上でゼロにしたとしても根本的な解決にはなりません。保育の質を確保した子育て環境を本気で整備していくことが求められています。

【メモ】行政の発表する待機児童数は、認可保育所の利用申請をして入所できなかった児童のうち、認可外のナーサリールームや家庭保育室などで緊急避難的に対応している児童を除いた数となっています。



現場の声で市政を動かす 子どもたちの笑顔あふれる街に

# Your Voice (あなたの声&みんなの声)

## 子どもたちに「宝物」残したい

「ふるさと上谷沼 地域創造塾」代表

貴家 章子(さすが・あきこ)さん 南区太田窪在住

小学生のころ、凧揚げをしたりして遊んだ思い出の上谷沼。調節池建設で洪水はなくなり、周辺は整備されウオーキングもできるようになった。それは本当に嬉しかったのだけれども、湿地で大合唱していたカエルやさえずるヒバリ、ヨシ原に営巣して子育てをしていたオオヨシキリたちは姿を消した。身近な森、地域の自然を少しでも残したい。行政は私たちの「思い」は聞いてくれるが、実際にどうすればいいかは教えてくれなかった。

2007年4月、さいたま市と川口市の住民有志で市民団体「地域創造塾」を立ち上げた。上谷沼調節池周辺を私たちの「まち」として再認識し、豊かな生き物空間を復活させていくことで、次世代を生きる子どもたちにかげがえのない「宝物」を受け渡したいと思う。

生き物の立場で考えるというのが、これからの自然を守っていくキーワードではないか。そこにいるべき生き物、あるべき野草や樹木を大切に、外来種をできる限り減らし、維持管理の方法も住民目線で考える。すべてを役所頼みにせず、市民は何ができるのか。反対運動ではなく、プラス思考の「提案型」の活動を今後も続けていきたい。

**上谷沼調節池** さいたま市太田窪と川口市芝にまたがる18・2haの河川用地。洪水対策の調節池で、運動場として利用されつつ、一部は往時をしのばせる湿地が広がる。



▲秋に草を刈らずに残したヨシ原で虫を食べるモズ(ふるさと上谷沼 地域創造塾提供)



▲行政が行う年2回の草刈りでは、「ふるさと上谷沼 地域創造塾」の提案であえてヨシなどの茂みを刈り残した箇所を作り、小さな鳥が逃げ込めるようにしている

川田龍平氏(みんなの党参院議員)

1月28日、国会代表質問より抜粋

公設保育園増設に財政措置を

「本当に必要なのは女性たちが働きながら安心して子どもを産み育てられる環境をつくることです。当事者である親たちや現場の人々、地域の声を無視して子ども・子育て新システムを入れた結果、更に自治体の負担が増えたとき、一体政府はどうするつもりなのでしょう。私は、子育てをする母親の声を聞く会を続けていますが、聞こえてくる声は多くの地方自治体と同じ、公設保育園の増設などに財政措置を講じてほしいというものです。子どものために国が本気でお金を注ぐこと、それなしに、親が、地域が苦しむ制度の中で、子どもが本当に生きていて楽しいと思える社会は実現できません」



こんなにたくさんの小鳥のさえずりを聞いたのは、何年ぶりだろう。立春の日の4日、上谷沼調節池周辺を訪れた▼ほんの数分先で、カルガモのつがいエサをついばんでいる。人間のほうが、生き物の生活空間に「お邪魔してます」という感覚になった▼身近な自然の保護には、そこに住み、長期的視点を持っている住民の知恵や経験値が必要なのだろう▼行政がパブリックコメントで「市民の意見募集」と言い出した時は既に事業計画はできているもの。だから形式的となり、反対運動や無関心が生じたりする▼市民が先に動き、役所を動かしていく。地域創造塾はそれを実践していた▼富田かおりの現場リポート1号をお届けします。これから、よろしくお願ひします。



新人富田かおりの政治活動を手伝ってくださるボランティアを募集しています。富田かおりの姿勢に賛同いただける方、一緒にまちづくりを考え、行動してくださる方。ご意見もお寄せください。

あなたの声をお聞かせください

Email: [tomita@minnanokaori.net](mailto:tomita@minnanokaori.net)



市政に新鮮力!

